

「わたしはだれでしょう？ Part. 2」

名 前	得 点	/10
-----	-----	-----

	だれかな？	説 明
①	<p>答え ↓</p> <p>鑑真 (P.32,33)</p>	<p>苦勞して日本にやって来たのに、日本の僧侶たちにこんなに迷惑がられるなんてびっくりだ。しかし、どうか来てほしいと頼まれてやって来たんだ。とにかく、正しい仏教を少しずつでもこの日本に伝えていかなければ。</p> <p>仏教は聖徳太子の時代に日本に伝わり、日本中に広められていましたが、聖武天皇の時代には、やや自分勝手に仏教を利用している人たちもいました。そこで、正しい仏教を広めるために中国から呼ばれたのが鑑真です。鑑真の弟子による妨害や暴風雨のため何度も失敗し、6回目にやっと来日しました。鑑真は仏教だけでなく多くの新しい知識を日本に伝えてくれました。</p>
②	<p>答え ↓</p> <p>藤原道長 (P.36~40)</p>	<p>わが一族は、鎌足様のおかげで宮中で権力をほしいままにしていたよ。私は五男だったから、まさかこんなに出世するとは思っていませんでした。ただ、紫式部を家庭教師につけた娘を天皇の后にして孫を天皇にしたり、毎日残業をするなどががんばったけどね。</p> <p>この人は、貴族の頂点に立った人ですが、幼い頃跡継ぎとして育てられず、あまり勉強をしていなかったようで、漢文が苦手で（今で言うところの文章を書くのが下手で、漢字もきちんと使えない）かなり苦勞したようです。それで、当時の貴族が適当に手抜きをして仕事をしている中、ただ一人遅くまで残業をするなどががんばりました。自分の子どもたちには同じ苦勞をさせたくなかったのか、子どもには優秀な家庭教師をつけるなど、とても教育熱心だったようです。</p>
③	<p>答え ↓</p> <p>北条時宗 (P.52~54)</p>	<p>はっ？元？日本と仲良くしたいって？いらんいらん、追い返せ。また来た？斬り殺せ。九州まで攻めてきた？御家人たち、今こそ我が国の底力を見せてやれ。何？何とか撃退したけどまた来るかもって？じゃあ、九州の海岸に土塁を築かせろ！</p> <p>この人が鎌倉幕府で政治をしていたとき「元」という国が、九州に2度攻めてきました（「元寇」と言います）。2度とも日本は苦戦しましたが、武士たちの必死の働きと暴風雨など自然の影響もあり日本が征服されることはありませんでした。今の私たちは、「攻めてきたのは2回」と知っているから征服されなくてよかったと思えますが、当時の九州の人たちは、「またいつ来るか分からない」と不安だったでしょうね。</p>
④	<p>答え ↓</p> <p>野口英世 (P.123)</p>	<p>病気の原因である細菌と、その治療法を見つけ世界の多くの人を救ったよ。でも、多くの人を苦しめていた細菌をアフリカで研究中、その細菌にやられ命を落としたよ。</p> <p>この人の生い立ちは伝記などで読んでいる人も多いのではないのでしょうか。「ちょんまげ」の時代からまだ50年もたっていないときに、当時原因の分からなかった病気の研究で世界に認められるまでになったことはすごいことです。今、野口英世と同じ志をもった人たちが、コロナウイルスの治療法を見付けるための努力をしてくれていますね。</p>
⑤	<p>答え ↓</p> <p>杉田玄白 (P.94)</p>	<p>おいおい、今まで私たちが信じていた医学は何だったんだ。人の体を解剖してみるとぜんぜん違うじゃないか。それに比べて、オランダの医学書はなんて正確なんだ。よーし、良沢さん、いっしょにこの本の日本語版出しましょうよ。</p> <p>オランダの医学書「ターヘル・アナトミア」の人体解剖図を見て、本当かどうかわかめるため、死刑になった人の解剖に前野良沢らと立ち会い、その正確さに驚いたことから、その本を翻訳することを決意したと言われています。とりあえず日本語版を出版したかった玄白と、正確な翻訳になるまで出版したくなかった良沢はトラブルになり、結局「解体新書」に良沢の名前は載せられませんでした。</p>

⑥	<p>答え ↓</p> <p>大久保利通 (P.102~109)</p>	<p>日本を欧米に負けん国にすつため、たくさんの改革を行ったじゃ。同じふっさとんせごどんを西南戦争で失うたんなつらかったな。(薩摩弁ぽくしてみました)</p> <p>この人は、アメリカ合衆国やヨーロッパの国々などに対抗できる国にするためには、外国のすぐれた技術や文化、政治の仕組みを取り入れた改革を進めることが必要だと考えました。「時代劇」に出てくるような時代を一緒に終わらせた仲間と考え方が違ったときも、自分の考えをつらぬきました</p>
⑦	<p>答え ↓</p> <p>夏目漱石 (P.123)</p>	<p>松山も舞台になっている「坊っちゃん」は、わたしが書いたんだよ。当時の他の人の作品と比べてみてね。わたしの書いた作品は、すごく内容が分かりやすいことに気づくと思うよ。</p> <p>問題にあるように、この人は、当時としてはめずらしいいわゆる「話し言葉」で書いた文章が多く、だれが読んでもとても分かりやすかったので、新聞で発表された作品はとても人気がありました。今みなさんが楽しく読書をすることができてるのも、この人たちのおかげです。正岡子規の友達として、松山で2か月近くいっしょにくらしていたこともある人です。</p>
⑧	<p>答え ↓</p> <p>足利義政 (P.56~63)</p>	<p>いやー、私のせいで10年以上も続く争いが起こっただの、京都が荒れ果てたなど言われても。別に私が戦いを仕掛けたわけではないし。跡継ぎが誰でもいいじゃないか。私は、庭を見ながらのんびりと暮らしたいだけなんだよ。しかも。ジャニーズ先生は、私のファンなんだ。</p> <p>この人は、応仁の乱の原因をつくり、室町幕府の力を弱体化させたことで有名ですが、将軍としてやるべきことはやろうと努めていたという記録も残っています。文化面では多くの功績を残し、特に銀閣の造営で有名ですが、実は銀閣完成前に亡くなっています。もしもう少し長生きしていたら、大好きな湯漬けを食べながら、さらに多くの文化を栄えさせていたことでしょう。</p>
⑨	<p>答え ↓</p> <p>徳川家光 (P.76~85)</p>	<p>私はおじいちゃんを尊敬しているんだ。だって、わたしを将軍にしてくれたんだから。だから、わが一族が永遠に大名たちを支配するためにがんばらないと…。そうだ、大名たちの家族をここに住ませ、毎年自分の国から来たり帰ったりさせよう。これで、大名を経済的にも苦しくさせることができるぞ。</p> <p>この人は、小さい頃体が弱く、「弟の方が将軍になるのでは？」と多くの家臣が思っていたようです。それでも将軍になれたのは、祖父の徳川家康の後押しがあったからだと言われています。将軍になり、父の秀忠が亡くなってからは、大名やキリスト教に対して強気の政策を進め、江戸幕府が長く続くために力を注ぎました。</p>
⑩	<p>答え ↓</p> <p>小野妹子 (P.24,25)</p>	<p>私は、大王の命を受けて随に派遣されたんだよ。以前行った人たちは、我が国が国としての形ができていなかったため相手にされなかったみたいだけど、私は違ったよ。大王の手紙の内容に最初は激怒されたけど、最後には我が国を認めてくれたんだよ。</p> <p>大國の中國に、日本が一つの國として認められていなかった時代、日本が國として整っていることを丁寧に伝えただけでなく、中國と他國との關係をうまく利用して中國の役人まで日本に連れて帰ることに成功した人です。この後、日本はたくさんの留學生を中國に送り、さまざまなことを國づくりに生かしていくこととなります。ちなみに、小野妹子は男性です。</p>